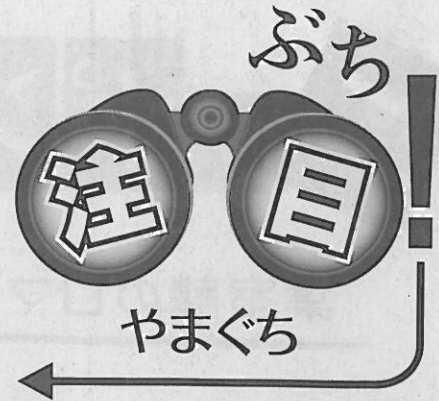


宇部市善和の養鶏場「よしわエッグファーム」が昨年12月、国際的な衛生管理手法を用いた「農場HACCP(ハサップ)」の認証を受けた。西日本の養鶏場では初めて。約6年前から取り組み

を始めた又野太社長(49)は「認証されたら終わり、ではない。さらなる衛生管理の向上を目指し、製品の信頼を高めたい」と意欲を燃やす。

【蓬田正志】

HACCPは、米国で食品の安全性を確保するために開発された。09年に認証基準を公表した。中央畜産会な



手法。最終製品を抽出検査するだけにとどまらず、製造工程で化学物質や異物混入などの危険が生じる管理ポイントを設定し、継続的に監視・記録することで、食品の安全性を高める。

# 農場HACCP認証

農場HACCPの認証を受けた「よしわエッグファーム」 同社提供



## 養鶏場では西日本初

# 信頼アップへ衛生管理

宇部「よしわエッグファーム」

よしわエッグファームは、約12畝の敷地に40万羽の鶏を飼育する。県内最大の採卵場で、卵を選別してパック詰めする工場も併設する。ファーム内でHACCPの取り組みを始めたのは09年。取引先の業者から岡山市内で開かれたワークショップへの参加を誘われたのがきっかけだったという。

又野社長は「当初は

農場HACCPの取り組みを始めたのは09年。取引先の業者から岡山市内で開かれたワークショップへの参加を誘われたのがきっかけだったという。又野社長は「当初は、うまく転がらなかった場合はケージに長時間放置され品質劣化を招

ど民間の審査による認証制度が11年から始まり、養鶏場ではこれまで全国で15農場(北海道9▽長野県2▽宮城、茨城、埼玉、愛知)が認証を受けた。よしわエッグファームは、飼育工程をすべて文書マニュアルにすることが必要で、外部講師の指導を受けながら作業を進めた。出来上がった書類の厚さは数センチになった。ファームでは、管理ポイントに「集卵」を設定した。鶏が生んだ卵は、傾斜の付いたケージ前方のベルトコンベヤーに転がって集荷される仕組み。しかし、



農場HACCP認証に向け、社内で行われた会議 同社提供

く。その卵が何かの拍子で転がり、コンベヤーに乗ると、そのまま集荷されてしまう危険性が予想されたため、定期点検の対策を取ったという。HACCPの取り組みを始めたことで、社内でのコミュニケーションが活発になるメリットもあったという。農場HACCPの認証制度は日本独自のものが、又野社長は「世界的に認知が広がれば、農場の信頼も上がる。将来的には卵の海外輸出も検討したい」と語った。

## よしわエッグファーム

### 農場HACCP 西日本初の認証

畜産農場での衛生管理の向上を目的とした管理システム「農場HACCP

P(ハサップ)の認証を、宇部市二俣瀬善和の「よしわエッグファーム」が西日本の養鶏場では初めて取得した。区分は採卵鶏。HACCPは、食品の製造過程で問題が起こり

得る部分を重点的に監視する衛生管理の手法。宇宙食製造の衛生管理のためアメリカで構築された。農場HACCPは、畜産農場にこの考え方を導入。微生物や化学物質、異物などの危害要因を明確化し、継続的に監視して安全性を高める。農林水産省は2011年度から民間農場の認証を実施している。

同社は38万羽の鶏を飼育。県山口農林事務所畜産部の助言を得て、作業手順を洗い出し、フローチャートを作成。従業員は衛生に関する意識啓発にも力を入れた。又野太社長は「認証は再スタート。PDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを回し、安心安全の食品を提供し続けたい」と述べた。

(佐野)